



兵庫の

ユニバーサルツーリズム from 神戸

障害がある人や高齢者の旅を支援する「ユニバーサルツーリズム」(以下、UT)。ユニバーサルなまちを目指す神戸に、取り組みの「お手本」がある。



1車いすユーザーのスタッフが取材＆編集。実用性は◎だ 2ポートタワー北隣、中突堤中央ビル内の「神戸ユニバーサルツーリズムセンター」事務所 078-381-6470 3ご主人と別行動で神戸を散策するHさん。思い出が2倍に…★ 4・5クルーズ船やタクシーなど、補助の手配で移動の不安ゼロ…★ 6・7無料で使える車いすや多目的トイレも、ユニバーサルな観光に一役 8情報通の車いすスタッフが当事者目線で案内…★ 9鞍本さんと野見さん。「UTは地域の活性化にも役立つはず」 10刻み食の例。大きさや粘度など細かい要望に応じてくれる…★

★=写真提供/神戸ユニバーサルツーリズムセンター

プレゼント

神戸市内の福祉施設で手作りされた布小物やカードのセットを5人に。35名の応募要領で。15年4月末日必着。品名=兵庫4月手作り雑貨



設備のバリアフリー化だけでは取り除けない「障害」を、どう解消するか……。皆が意識を持つことで、UTはもっと身近になるんじゃないかな。

「おもてなしの担い手に」 UTは全国に拡大しているが、受け入れにはまだまだ地域差がある。取り組みを後押しする法制度の整備も課題だ。「住民の皆さん一人一人が、「おもてなし」の担い手になってほしい」と鞍本さん。「滞在しやすい町は、住みやすい町でもあるんですから」

フリー情報の提供だ。スタッフの一人、野見朋子さんは「仲間には車いすユーザーもいる。独自の視点でリアルな情報を集めてくれるんです」とニコリ。「行けるかどうか」だけでなく、清潔度やグルメ度にも及ぶ情報収集が「障害がある人の就労支援にもなっています」。UTをサポートする側にも笑顔が付いてくるなんて、ステキ♡

「おもてなしの担い手に」 UTは全国に拡大しているが、受け入れにはまだまだ地域差がある。取り組みを後押しする法制度の整備も課題だ。「住民の皆さん一人一人が、「おもてなし」の担い手になってほしい」と鞍本さん。「滞在しやすい町は、住みやすい町でもあるんですから」

移動、食事、宿泊……。体の不自由な人にとって、旅の敷居は高い。介助する人にも、だ。「本人が旅をしたくても、重い扉を開けるのは介助する側」と、ウイズアス代表の鞍本長利さん。自身も要介護の娘がいて、旅行の大変さを知るだけに、「一緒に楽しむ旅」にこだわる。

事前に身体状況を聞き取り、滞在中の安全を確保。介助人を現地派遣することで、出発地からの同行より低コストに。安心感のあるコーディネートが利用者を受け、リピーター客を増やしている。

加えて頼もしいのは、バリアフリー移動、食事、宿泊……。体の不自由な人にとって、旅の敷居は高い。介助する人にも、だ。「本人が旅をしたくても、重い扉を開けるのは介助する側」と、ウイズアス代表の鞍本長利さん。自身も要介護の娘がいて、旅行の大変さを知るだけに、「一緒に楽しむ旅」にこだわる。

「おもてなしの担い手に」 UTは全国に拡大しているが、受け入れにはまだまだ地域差がある。取り組みを後押しする法制度の整備も課題だ。「住民の皆さん一人一人が、「おもてなし」の担い手になってほしい」と鞍本さん。「滞在しやすい町は、住みやすい町でもあるんですから」

もれなく笑顔付き

「おもてなしの担い手に」 UTは全国に拡大しているが、受け入れにはまだまだ地域差がある。取り組みを後押しする法制度の整備も課題だ。「住民の皆さん一人一人が、「おもてなし」の担い手になってほしい」と鞍本さん。「滞在しやすい町は、住みやすい町でもあるんですから」